

朝鮮半島と北東アジアにおける平和の確立についての韓国女性の立場

丁京蘭 (チョン・ギョンラン)
韓国・平和をつくる女性たち

南北朝鮮は、1945年に日本の占領が終了した直後から分断されており、停戦協定のもとで、専門的に言えばいまだに戦争状態にあります。日本の植民支配、民族分断、朝鮮戦争、そして冷戦の自らの体験を通じて、朝鮮半島の平和の重要性を認識するようになりました。私たちの経験は、平和とは命そのものであり、根源的な希望であり人類の普遍的権利であることを実証しています。私たちは、平和構築、人権の発展、紛争の解決と予防によって女性の開発に貢献する環境をつくりことに、もっとも力を注いでいます。

北朝鮮の核危機の解決に向けて、6カ国協議、北朝鮮とアメリカの関係改善、政府レベルでの南北間の交流と協力など、一定の努力がなされています。アメリカと北朝鮮の関係改善と六カ国協議の背品点は、朝鮮半島と北東アジアにおけるあらたな平和と協力をつくり出す画期となるでしょう。一方で、李明博（イ・ミョンバク）大統領の就任後、南北関係は対立的なものになっています。イ・ミョンバク政権は統一省と男女平等省を廃止しようとしていました。また、米韓関係をより強固なものにしようとしています。

6カ国協議は、朝鮮半島の非核化および朝鮮半島と北東アジアにおける平和構築にとって、重要な交渉の場です。しかし、このプロセスに女性がほとんどかかわっていません。1995年の北京行動綱領重大関心領域のE(女性と武力紛争)と、国連安全保障理事会決議1325号にしたがって、平和交渉のプロセスにより多くの女性が参加すべきです。北京行動綱領と国連安保理決議1325号は、ジェンダーの主流課の立場から、平和プロセスや紛争後の時期への女性の参加を強調しています。各国政府は、平和維持、予防外交および関連する活動についての問題や、和平調停や好調のすべての段階において政策を策定したり影響を及ぼしたりするような国内および国際的な機構における女性の役割を強化し、すべての意思決定レベルへの女性の平等な参加を保障するための手だてをとらなければなりません。持続可能な平和は、女性の完全な参加がその土台となります。北東アジアの人口の半分を占める女性が、平和構築において男性のパートナーとして参加することは、女性にとって意思決定、リーダーシップ、教育の機会になります。女性は、平和プロセスにおいてその能力を生かし、ジェンダー・エンパワーメントを推進しなければなりません。

韓国の女性団体は、朝鮮半島と北東アジアに平和を構築するために努力してきました。私たちは、南北朝鮮の和解と協力のために活動し、反戦運動を組織し、女性6カ国協議のような北東アジアに女性の平和ネットワークをつくる努力をしています。

私たちは、2000年の南北首脳会談以後ほぼ毎年、北朝鮮の女性団体とともに行事を開催し、北の子どもや女性に食糧や肌着を送っています。それぞれの体制、文化、教育のちがいにより、南北の女性たちが集うときに、互いを理解するうえで困難もあります。私たちは、二つのコリアの和解には、忍耐と、平和的な手段で問題を解決するという政治的意思と、紛争解決能力が必要だと実感しています。韓国の女性団体は、イラク、アフガニスタン、レバノンの戦争に反対し共同でデモをおこなっています。平澤（ピョンテク）の米軍基地拡張を阻止する行動もおこないました。私たちはまた、学生、教師、親、活動家や女性たちを対象とした仲裁、円滑化、

交渉、関係構築などに関する紛争解決プログラムを実施しています。

昨年 2007 年、「平和をつくる女性たち」は、韓国の女性リーダーや国会議員数名とともに、日本、中国、アメリカ、ロシアの 4 カ国を訪問しました。目的は、北東アジアに女性の平和ネットワークをつくること、そして 2008 年金剛山で開く予定の女性 6 カ国協議について説明することでした。私たちはまた、ソウルで開かれた第 1 回の北東アジア女性平和会議・女性 6 カ国協議準備委員会についても話しました。

今年、韓国の女性団体は、イ・ミョンバク新大統領の男女平等省と統一省廃止の動きに反対し、一生懸命活動しました。結局大統領は二つの省を存続することにしましたが、その昨日は大幅に弱められ、職員も削減されてしまいました。

さらに、韓国の女性は、朝鮮半島と北東アジアに平和と共存を実現するために、以下のことを宣言します。

1. 私たちは、北東アジア各国政府にたいし、軍事中心の安全保障にもとづくのではない共存と協力にもとづく平和政策を発展させるよう、強くもとめる。

永続する平和は、相互不信にもとづく軍拡競争ではなく、共存と協元に確固としてとりくむことができるかどうかにかかっています。私たち女性は、各国政府が他国との相互理解、協力、相互依存を深めるための手段を見出すよう、強くもとめます。私たちは、社会的権利の保護や持続可能な開発を一定制限する軍事中心の安全保障ではなく、平和、環境保護、持続可能な開発と女性の権利を一体のものとして推進するための包括的なアプローチをめざします。

2. 私たちは、朝鮮半島の非核化と停戦協定を平和協定にかえることをもとめる。

朝鮮半島での平和の確立は、北朝鮮の核問題の解決と密接にかかわっています。北朝鮮の核問題の解決なしに、朝鮮半島の平和な将来は実現できません。北朝鮮の核問題は、根本的かつ平和的に解決されなければなりません。そして、敵対関係を解決して北東アジア諸国の間に真に正常な関係を確立するために、北朝鮮の安全を保障しなければなりません。

私たちは、朝鮮半島において平和体制のもとで、外交と平和的な手段による、経済協力と交渉と対話を通じての紛争解決をもとめます。朝鮮半島の非核化は、私たちが達成しなければならない目標です。韓国・朝鮮の人々は、1945 年に広島と長崎で被爆した韓国・朝鮮被害者の経験を通じて、核兵器の被害をいやというほど知っています。北朝鮮にも、アメリカにも、朝鮮半島のどこであっても、私たちは核兵器の実験も、製造も、生産も、登録も、保有も、貯蔵も、流通も、使用もしてはなりません。さらに、アメリカをはじめとする核保有国は、朝鮮半島の非核化を保障し、ただちに核不拡散条約 (NPT) 第 6 条にもとづき核兵器削減交渉を開始しなければなりません。

3. 私たちは、朝鮮半島と北東アジアにおける軍縮と、軍事予算の社会福祉や教育分野への転換をもとめる。

朝鮮半島と北東アジアは全体として、軍事増強が集中している地域です。アメリカを含め北東アジアは、世界の軍事費の 65% を占めており、毎年 8% 以上も増えています。これは、世界平

均の3~4%を上回っています。2003年の購買価格にもとづいて推計した2005年の軍事費は、アメリカが4782億ドル、中国が1884億ドル、ロシアが644億ドル、日本が349億ドル、韓国が234億ドルです(http://www.sipri.org/contents/milap/milex/mex_trends.html)。挑戦半島の平和は同時に軍縮を意味し、ひいては北東アジアの軍縮につながります。私たち女性は、各国政府が、軍事費を、食糧生産、環境保護、教育、福祉など人間の開発の分野に切りかえるよう求めます。

4. 私たちは、促進者として北東アジアにおける平和構築プロセスに積極的に参加し、各国政府が平和構築への政策決定プロセスに女性の参加を保障するよう、もとめる。

女性は、地域の市民組織、草の根組織、地域グループ、NGO、政策機関とともに、北東アジア平和共同体の確立をすすめるうえで、積極的、協力的な役割を果たします。分断された南北朝鮮と北東アジアに和解を促進し相互繁栄をめざすのは、長いプロセスであり、忍耐と知恵が必要です。異なる体制に住み、異なる考え方をしているにもかかわらず、女性には独特なつながりがあり、それを生かすことができます。さらに、私たちは、相互理解と対話を通じて共通のビジョンを確立することができる、仲介者の役割も果たします。現在、朝鮮半島と北東アジアの運命を決定するであろう6ヵ国協議のような会合含め平和と安全保障に関する政策決定プロセスに、女性はひとりも参加していません。女性は、機会、資源、尊重という点で、平和構築のプロセスのなかで差別されているのです。女性は、政策決定のすべてのレベルで平等に参加し、平等な意思決定権をもたなければなりません。そうすることによって、平和、外交、防衛の分野における政策決定プロセス、すなわち紛争の管理、解決、予防のプロセスにおいて、ひとつのジェンダーへの偏りや不平等が起らないようにすることができます。加えて、男性と女性両方の関心や経験を統合することができます。ですから、女性に平等な機会を保障するために差別是正措置が必要です。特に、私たちは、和平交渉および外交、再統一、防衛政策の決定における意思決定プロセスにおいて女性が30%を占めるというクォータ（割り当て）の保障をもとめています。

5. 私たちは、世界の女性、特に日本とアメリカの女性に、韓国と朝鮮の女性たちとの間の和解と協力を積極的に支援し、北朝鮮の女性と関係と協力をつくる努力をするよう、要請する。

韓国女性は、平和を愛する女性や市民社会との協力によって、朝鮮半島と北東アジアに平和を推進したいと考えています。女性の協力は、国境を超えます。こうした協力を通じて、私たち女性とともに、北東アジアにおける争いや対立を乗り越え違いを受け入れることができるでしょう。このような協力は、平和と共存という普遍的価値を達成するための、推進力になるでしょう。